行財政改革大綱後期実施計画

実施事項名	処理施設運転管理業務見直しの検討	重点項目番号	2
現状、問題点、必要性 （なぜやるのか）	【現　状】 浄化センターの運転管理業務は、第1処理場は市の直営で、第2処理場は民間業務委託により行っている。 【問題点、必要性】 経費削減や定員適正化の取組等により、施設の運転管理手法の検討を要する。 【現状の客観的な説明】 第1処理場は市の直営で運転管理を行い、設備補修工事等は設備設置業社が行っている。第2処理場は建設当初より人件費等経費の節減を考慮し設置業社が運転管理も行っている。	番号	②
		担当課（執行する課）	生活環境部浄化センター
		責任者名（執行責任者）	浄化センター　所長　藤森　法幸
		担当課電話番号	23－1179
対象等（なにが、だれが）	し尿処理施設運転管理業務	財政効果額（千円） （いくら削減されるのか、いくら収入増となるのか）	【金　額】 【算定根拠】 　平成20年度に運転管理方法を決定後その運転管理経費を算出し現在の経費との比較を行い、想定される効果額として平成　20年度に公表する。
成果（対象がどうなるのか）	人件費の削減等、経費の節減が行える。		
実施する内容・目標数値 （対象を成果の状態にするために、何を、いつまでに、どのようにやるのか）	【実施内容】 　浄化センター処理施設の運転管理の手法について検討し、経費やサービス水準等各項目の比較・検討を行い、その方向性を決定する。 【目標数値】 　《最終目標》 　浄化センター処理施設の今後の運転管理方法を決定し、その方針に基づき実施する。 　《平成20年度の目標》 　処理施設の今後の運転管理方法を決定する。 　《平成21年度の目標》 　検討結果に基づき今後の運転管理の方法を実施するための条件整備を行う。 　《平成22年度の目標》 　平成20年度に決定した方法で施設の管理運営を開始する。 【目標の客観的な説明】 　第1処理施設の運転管理が焦点になると思われるが、センター全体の運転管理の方法を検討する事で更に合理化できる項目を見出す。		
		特記事項	第1処理施設は建設当初から26年経過しており老朽化が進んでいる。また職員も今後5年間で7名中3名が定年を迎える。

目標を達成するための活動指標（全体目標を達成するために個別に実施する項目）（何をどれだけやるのか）

活動指標名	目標値	定義・算定式	平成20年度（4月　10月）	平成21年度（4月　10月）	平成22年度（4月　10月）
運転管理方法の検討	部内会議・検討委員会の開催	（平成21年3月まで随時開催する。）	↔		
運転管理方法の条件整備	業社との詳細な調整等	月1回以上行う。		↔	
運転管理の実施		4月より実施する。			↔